

平成 26 年度

事業所名 : グループホーム笹の木

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392400040		
法人名	医療法人社団 真心会		
事業所名	グループホーム笹の木		
所在地	岩手県和賀郡西和賀町湯本30-74-8		
自己評価作成日	平成 26 年 9 月 20 日	評価結果市町村受理日	平成27年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0392400040-00&PrefCd=03&VersionCd=02
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 26 年 10 月 14 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム笹の木は7年目を迎えました。67歳から96歳の利用者様の暮らしを支援しています。少しずつ重度化され、車椅子対応、食事介助、おむつ交換の介護が増えていますが自ら生きようとする力やその方の思い、言葉を大切にしようと努力しています。
グループホームの建物の中で過ごす事だけでなく 地域の方との交流の場を作ったり、自然の中での営みを継続出来るようにしています。
職員間では必要に応じて より良い介護が出来るよう話し合いの場を持っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、開設から7年目を迎え、利用者の年齢も平均86歳を超え、心身の状態も当初と大きく変化している。ホームの特徴は医療と介護の連携が図られ、かかりつけ医が毎日訪問され利用者の健康管理に留意し安心を提供しているほか、更に利用者・家族が心配する重度化や終末期の対応ができる体制が整備され安堵も提供している。また日常の活動では、利用者の意向にそった日々の暮らしの支援、そして地域との関わりを大切にす視点に基づき職員はその実践に向けて取り組んでいる。そのためか食事後も居室に戻る利用者はほとんどなく、職員と話したり、利用者と語り合ったりとアットホームな雰囲気と職員の熱心さを実感できる事業所である。なお、ホームの介護サービス支援の指針である事業所理念の見直しを行うこととし、現在職員間で今後のホームの目指すべきケア支援の方向性について検討しており、今後の取り組みに期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

【評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム笹の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設は7年目。介護理念の経過をまとめ10月に町の研究発表会に紹介する準備をしている。現在、理念の見直しに入っている。	開設7年目を迎え、理念をより利用者の視点から見直しを行うべく、今一度立ち止まって検討している。今後は、見直し後の新たな理念の意識付けを図るため学習や、玄関やロッカー、トイレなど、目に触れる場所に掲示して意識の高揚を図ることとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年より地域の集会の際にリビングを使用して頂いている。(祭りの話し合い、準備等)利用者の方々も地域の皆さんにお茶を出して下さったりして地域の一員として参加されている。	近くに住宅やスーパー等があり買い物や散歩途中、挨拶や立ち話しながら交流を深めているほか、近隣の方から時々野菜をいただいたり、地域住民が楽しみにしている事業所主催のビールパーティーの開催を通じて交流を重ね地域の一員として定着している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談者から話を伺い支援している。介護者の集いで症例を通しての発表をして認知症理解を深めて頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	状況報告を行い、各回に地域の班長、駐在等メンバーを加えて意見交換を行っている。	メンバーも7年を迎えホームの活動や利用者の状況を把握され、生活面をも熱心に理解されている。ホームの冬の除雪対策や避難誘導等の防災対策についても積極的な発言がなされ有意義な会議となっている。	運営推進会議メンバーのホーム運営や利用者状況等に対する理解が深まっているが、更に意見提言に繋げるため、利用者との食事や一緒に過ごす時間をもつなど、これまでと違った様々な試みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	昨年のグループホーム協会の全国大会にも参加頂いた。事故時の報告、職員不足について協力を頂いた。	普段の往来は特に多くはないが、必要に応じ訪問、電話、メールなどで情報交換し、意思の疎通、情報の共有はしっかり行っている。町職員とは長い付き合いを通じて顔見知りとなり、諸手続きや相談、指導・助言も円滑に行われている	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームの施錠は夜間のみ行い、それ以外は居室を含め施錠を行っていない。また、身体拘束ゼロ宣言に基づいたケアに努め、外部研修での資料を参考に内部研修を行い身体拘束ゼロのケアに理解を深めている。	身体拘束ゼロの宣言をしている。身体拘束廃止の研修や勉強を通じて拘束のないケアに取り組んでいる。施錠は日中は行っていないが、夜間は安全管理の視点から施錠している。なお、利用者の外出希望は、止めることなく、職員が同行している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事例を基に虐待防止の勉強会を行った、身体や言葉、態度による虐待に結びつかないよう注意してお互いの介護に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は1月に後見人養成講座を受講した。後見人制度を活用されている方もいるため関係者と話し合いをもったケースもある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、利用者様や家族と面談時間を取って説明をしている。退所の際も以後の生活について他の事業所と連携をして不安を感じないようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	総括やケアプランを渡す際に家族に説明をしたり、意見交換をしている。また、運営推進会議に参加して頂き意見を頂いている。	ホームへ来所の時や、ケアプラン説明時にお話を聞くほか。毎月「日々の生活状況」を記載したお便り便を送付し、利用者の健康や生活の状況をお知らせし、ホームと家族等との信頼のパイプとなっている。その際、何か気づいたときは意見を窺っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人のミーティングや笹の木のミーティング、毎日の申し送りで意見を述べたり、普段の業務の中でも改善点などがあれば業務日誌に記入したり職員間で話して管理者や代表者に繋げている。	ホーム内の会議のほか、日々の申し送りや業務を進める中で意見を述べあい、気が付いたことは先送りせず、即議論し合っている。特にケアに関する疑問点については、徹底的に納得行くまで議論し合っており、職員間の意識の共有を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に伴う給料アップや退職後にパート業務に参加して頂いたり、職員の子育てを支援して安心して勤務出来るようにしている。また、体調管理出来るように環境整備等に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人一人がワンランク上の資格にトライ出来る環境作りに努力している。また、法人内外、町内、県内の研修に参加している。 (保健福祉調査会、実践者研修、町内研究発表会、介護者の集い等)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	自施設へ外部講師を御招きして研修を開催し、多施設との交流の場をもった。その後は、多施設からも声が掛かり研修に参加した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言葉や反応、表情等を記録に残し本人の想いをスタッフが共有、分析した上でより良い関係を作るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申込の時点で家族の想いやその状況を引き出し、関係作りを開始している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用相談の段階から、他のサービス利用の可能性を含めてどんな支援があり、どんなことが必要なのか話しあっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が自ら行おうとされる事柄を大切にしてお互いに気持の良い挨拶が交わせるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が表現できない事と職員が間に入り理解をしながら家族に繋げたり、誕生日、敬老会などには家族と一緒に祝うなどして共に支えて行く関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	突然の友人の訪問に対応したり、山菜採りや買い物に行って地域の方達と交流することで声掛けして頂いている。	利用者の年齢も高くなり、次第に馴染みの関係の人や場も狭くなってきているが、近隣の方々とお茶っこや地域行事への参加等を通じて新たな馴染みとして繋げたいとしている。時には遠来の友人の訪問を受け、旧交を温めている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	独語や物音をたてる利用者を叱る場面があるが、職員が間に立って納得出来るよう説明をしそれを繰り返している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	居宅の利用者様に関しては、担当のケアマネを通して状況を確認している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	飲み物の希望、山菜採り、室内の暑さや寒さに対応したり、入浴時間の対応等様々な本人の希望を引き出し対応している。	会話も次第に少なくなる中、寄り添いを強めながら気づきの感覚を研ぎ澄まし「今逢いたい人」「話したい人」「今欲しい物」「今飲みたい飲み物」等、個々の思いや願いの実現に取り組んでいる。あくまでも本人本位で、無理強いせず、サポートすることに心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話の中から昔の生活を引きだし、得意の調理や歩みが継続出来るように努めている。また、本人の希望に添ってこれまでの生活で使用していた馴染みの物を居室に配置するなどして、これまでと変わらない生活環境づくりに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室で過ごしたい時は、その意向に沿うように努めている。重度の利用者様も多くなっているため心身の状況に注意しながら過ごして頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	受け持ち制で、総括を通し家族へ生活状況を報告して関係作りに努めている。また、医療と連携し職員間でケアについてモニタリングを行い介護計画作成をしている。	居室担当制を設け、担当が、利用者の日々の生活内容・様子を記載した介護及び看護の記録を家族へ報告し理解を深めているが、その記録をもとに、ケアプラン案を作成しケア会議で検討し、介護計画を作成し、3か月ごとに見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活記録でケアの実践・結果、気づきや工夫を記入して申し送りや情報交換をしながら実践して介護計画に結び付けている。また、気になることが有ればその都度情報を伝え共有し計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自宅周辺での山菜採り、家族と出かけるための支援、体調変化に伴う対応等に柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園や他施設との交流を行ったり、栗拾い、回覧板まわし、商店との連携、美容室へ行ったりと地域の方々の眼を利用し安全で豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体法人の医師がかかりつけ医で、毎日訪問診療に来て下さっている。また、歯科も希望の利用者様は訪問診療を受けている。	利用者全員が母体法人の医師がかかりつけ医で、毎日、訪問診療により体調管理を行っている。また、皮膚科、眼科は町外受診となるが、歯科は訪問診療を受けている。普段は、医療機関の看護師との連携により健康管理をしっかりと行い安心に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は常勤しているため、利用者様の変化や気づきを報告を受けて必要に応じて母体の医院に連絡・相談し受診や専門医に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体医院での入院の場合は、往診時に利用者様の状況を聞いたり、様子を見に行っている。他の病院に入院された場合は、職務の合間を見つけて顔を見に行き安心して頂くなどし、病院関係者とも情報交換したり今後の対応について相談出来る環境作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時に重度化や終末期について説明をして同意を頂き、家族や本人から終末期への想いを聞きとりしている。母体法人とも重度化や終末期について共有し取り組んでいる。	母体法人が医療機関であることを踏まえ、重度化及び看取りに関する指針を策定し、ホームがしっかりと対応する旨説明し、利用者・家族の安心に繋げている。職員も経験を基に普段から研鑽を積んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一人一人の状態から起こりうる変化や事故について話し合い、医療との連携を第一と考えている。また、その間行うべき対応について訓練をつんでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、職員の連絡体制の確認や地域の方々の参加による訓練の実施で利用者様一人一人の避難の仕方などについて理解や確認をして頂いている。	スプリンクラーを設置し、オール電化であることから業者による機器点検や職員による防火点検を行っている。消防署立会いによる避難訓練を年2回実施しているほか召集訓練も実施している。避難訓練には近隣の住民の参加を頂き、協力を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導や失禁時の対応についてもさりげなく声掛けを行い対応している。また、言葉の一つ一つを受け止め介護に繋げている。人生の先輩として言葉掛けるようにしている。	声掛けについては、人生の先輩でもあることから基本的に“さん”付けて呼び合い、トイレ誘導では、小声でさりげなく声かけを行い、尊厳を損ねないような対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人が言葉を発する様な声掛けを行い、出て来た希望に添えるようにしている。例えば飲み物の希望を聞いたり、着る物の希望を聞いたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声掛けは行うが、本人の希望で居室で過ごして頂いたり、食事を取って頂いたり利用者様一人一人の希望に添って日々その人らしい生活が出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類や履物など本人の好みの色や希望に添って季節ごとの衣類を着て頂いたりしている。また、衣類の整理整頓を受け持ちが行い、必要に応じて家族と相談しながら買い足したりしている。 洗顔後は乳液やクリームを塗っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや後片付けなど手伝って頂いたり、畑から収穫して皆さんに出して頂いたりして食事が楽しみになるよう支援している。	利用者の参加する場面は、年々、少なくなってきているが、イカの刺身づくりなど特技や好きなことを達成できる場作りなど、作業の中の場面作りを心がけている。家庭菜園での収穫物や近隣のお裾分けを材料として使うときは、それを話題にしながら、職員と一緒に和気藹々に、食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様一人一人に合わせた食事の形態や量を調節し必要な栄養が取れるようにしている。また、医師の指示で栄養剤を飲用されている方もいる。本人の好きな物を把握して食べたり飲んだり出来るようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科の指導のもと、自分で行えるよう声掛けをし、十分でない方には仕上げ磨きや全面介助を必要に応じて行っている。義歯は洗浄後洗浄剤に浸して翌日にすすいで本人に戻している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムの把握に努め、声掛けやトイレ誘導することで失禁などによる不快感を軽減できるよう支援している。 可能な方は、尿取りパットと布パンツを使用している。	排泄の自立は、生活の自立の基盤であるとの考えのもと、一人一人の排泄のパターンを記録し、適時適切な声掛けや巧みな誘導によって、排泄の失敗も少なくなり、利用者の自信に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため水分補給を心がけている。 メニューも野菜中心となっている。 下剤に頼らず乳酸飲料を飲むことで、便秘予防が出来ている方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望があれば日数や時間帯を決めずに支援している。入浴をしたくなるような声掛けや環境づくりをし就寝前の入浴や失禁後の入浴に対応している。	入浴時はコミュニケーションの場として大切にしているほか、重度の利用者には複数職員により対応している。時には風呂でテープ音楽に合わせて歌を歌ったり、職員の談笑を楽しむなど、ゆったりした入浴としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠前には安心して休める様な心がけをしている。家族に電話したり、枕もとにつまんで食べる物を置いたり、しばらく灯りをつけたり等しえんしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服したことによる体調の変化については即座に医院に連絡取れるようにしている。また、確実に内服出来るよう本人の手に出してあげたり、声掛けを行っている。用法・用量については医師に指導して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	リンゴや栗の皮むき、お茶をふるまう、食事の準備、後片付け、洗濯物たたみ方などの役割を楽しく出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出掛けたり、近くのスーパーに買い物に行ったり本人の希望に添って出掛けられるよう支援している。また、ご家族の方と一緒に外出や外泊をして頂いている。	歳を重ねる毎に遠出は少なくなっているが、ホームの周辺やスーパーなどへの散歩や買い物に出かけ、時にはワラビ取り、冬季行事の雪明り、墓参り、孫の結婚式など、家族の意向や、地域行事に応じてその都度臨機に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止のため個人の財布には2千円程の金額を入れており、買い物などで使った無くなった時は事務室で預かっている本人のお金から財布に補充している。買いたい物が有れば自由に買い物できるよう支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方にはいつでも会話出来るようにしている。手紙を書ける方には返事を書いて頂くよう促している。(年賀状など) また、家族からもハガキや手紙を書いて頂けるようお願いしている。携帯電話を預けて頂き自由に電話を掛けている方もいる。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員が毎日掃除をして清潔な環境作りに努めている。季節を感じて頂くために正月飾り、お雛様、季節の花、七夕、クリスマスなど飾りつけをしたり食事のメニューに季節感を感じて頂けるよう提供している。	玄関を含めて、共有空間には、多くの窓が設けられており、居ながらにして外の自然の四季を感じることができる。居間は整理整頓され、大きく綺麗なランの花も飾られ、明るく清潔感が感じられる。そんな中、利用者は複数で集って談笑し、アットホームを感じさせてくれる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は個室になっているため各自ゆっくり過ごしている。また、仲の良い利用者様同士自由に居室を行き来されている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのタンスやテーブル、椅子など本人が入所される際にご家族が用意され居室に本人と相談しては位置して下さっている。配置場所を移動する際には本人や家族と相談して行っている。	部屋には、壁掛けのカレンダーや時計、家族の写真や鏡などが置かれ、また飾られている。備付けの整理ダンスなどをうまく使いながら、整然かつ清潔快適に過ごされている様子が窺える。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂場に手すりをつけ、自分で立って出来るようにしている。自分の居室やトイレの場所が分かるよう自室の前に名前を貼ったり、トイレの表示をしたりしている。			